

## 令和6年度第2回学校運営協議会 記録

令和6年11月28日

13:30～会議室

司会 副校長 記録 教頭

出席者 学校運営協議会委員 7名(欠席 2名) 本校教職員 5名(欠席 3名)

資料 ○次第・学校評価報告書 ○学校要覧

○横浜中地区交通安全大会パンフレット・ポスター・クリアファイル

### 1 校長挨拶

インフルエンザ・マイコプラズマ肺炎等が流行り始めたが、生徒は元気に登校している。進路指導については推薦入試等の試験のピークが11月で、これから結果が出てくる。就職については連携性に関して、これからの生徒もいるが、概ね決まっている。

地域連携では、10月半ばに上矢部大運動会が本校グラウンドで行われ、地域から約1000名の参加という大規模な開催であった。坂井国家公安委員長も参加された。

また、次年度へ向けた人事異動の準備が始まっている。

本日は第2回学校運営協議会ということで、学校の根幹である授業の参観を行う。

10月に25台の大型電子黒板が配置された。今年度は県内で約3分の1の高校に配置されている。配置されてから日が浅いが、ベテラン教員・若手教員ともに当初の見込みよりも使いこなし授業に活用している。ただ、従来の黒板と電子黒板とを併用すると、生徒が注意を向ける先が二つになるという点で、ユニバーサルデザインの観点からは、改善の余地もある。

学校要覧をお配りした。表紙、裏表紙に美術科生徒のイラストが使用されている。本校が幹事校として携わった、横浜中地区交通安全大会のポスター・クリアファイルにも本校美術科の生徒の作品が採用されている。

### 2 5校時授業参観

リソースルーム、校内の壁画や廊下の美術作品を見ながら1,2年生の授業を参観

### 3 学校評価(中間評価)について協議

○ 5つの視点について、資料をもとに中間報告

副校長から達成状況について資料説明

① 教育課程学習指導

授業改善・授業互見週間について

若手職員の研究授業に関しては、同僚が積極的に参加している。（10名くらい）

電子黒板は引き続き有効活用を図っていく。

② 生徒指導・支援

教育相談連絡会に加え、サポートドックを利用し気になる生徒をSC・SSWとの面談につなげている。

交通ルール・バスの乗車マナーで地域の方々から注意を受けることが多い。高校を卒業すると注意される機会も減る。効果を出すのは難しいが、指導に取り組んでいく。

体育祭では美術科・普通科間の連携も見られ、良い行事であった。

9月初めの文化祭は、酷暑の中での実施となった。次年度の実施時期を検討中。

③ 進路指導・支援

「総合的な探究の時間」でキャリア教育を3年間を見据えて実践。生徒の進路希望を叶えるため、面接指導をきめ細かに実施。

④ 地域等との協働

様々な地域イベントに参加。9月にはアニメ漫画研究部が鳥が丘小学校と交流を行った。

近隣のカフェに作品を展示。奉仕活動では、150名を超える生徒が参加がした。

前回、HP活性化のご意見をいただいたが、部活動についてのページを改善している。

⑤ 学校管理・学校運営

「未成年者への性加害と性暴力」というテーマでの人権研修を予定している。

Teamsの有効活用は進んでいる。他校と合同の委員会や、修学旅行での連絡ツールとしても職員間で活用。

事故防止については、事故はなくて当たり前。当事者意識をもって不祥事ゼロに取り組む。

防災体制については、本校武道場に地域の防災倉庫があり避難体制の一端を担っている。高校生は災害の際に学校にいるとは限らず難しい面もあるが、今後も学校として地域の方々との連携を図っていきたい。今年度は防災マニュアルの見直しを行った。

## 校長より

○TTについて

連携生のフォローということで、TTを行っている。教員がどのような動きでフォローをしていくのが適切か継続的な試行錯誤による改善が必要である。

○サポートドックについて

目的は、生徒の希死念慮を早期発見し自死を防ぐということ。生徒の普段の様子からは兆候に気がつかず、何故この子がという子が自死に至るケースが珍しくない。

本日も SSW によるサポートドックのプッシュ型面談を行っている。

### 意見聴取 ～課題改善に向けて～

鈴木委員 電子黒板はクラスによって使い方が様々見られた。これから先生方の中で、授業での成功体験を共有することで、有効な使い方を見つけていくのではないかと  
いう感想を持った。

- ・先生方が授業参観を互いにする中で、決まった授業改善の視点はあるのか。
- ・事故防止研修会についてどのような事故を前提としているのか。

副校長 授業参観では、学校全体で設定したテーマがある。授業見学シートがあり、見学者はテーマに沿った評価を書き込んで授業者へ渡す。

校長 事故防止は、交通事故等ではなく、教職員の不祥事防止のことである。

田中委員 高校の授業を初めて見た。高校はこうした専門的な授業を行っている、だから主体的な教員の姿勢が見られるのだと感じた。やらされ感がない。漢文の授業でのペアワークでの音読が印象的でした。

キャリアの授業の小松菜の価格設定等まで行っているのが印象的だった。こちらの個別支援教室では植物を育てるまでなので、このようにキャリア教育につなげていくのかと思った。

本校にアニメ漫画研究部の生徒が来て、漫画クラブの生徒の指導をしていただいた。校長室で、小学生への指導について振り返る様子が、まるで教員のようにだった。小学生が「また来てほしい、次はいつ来るの、上矢部高校に入学するにはどうすればいいの？」と話していた。

岩下委員 美術科の授業が見たかった。大型黒板については娘から聞いていた。配置によっては前の方の生徒も見づらい。娘がアニメ漫画研究部として小学校へ行った。

小泉委員 先生方が生徒との距離を近くしようとする姿勢が見られた。生徒とのコミュニケーションがとれており、温かい教室だと感じる。

岩谷委員 子どもたちがのびのびとしている。

大型電子黒板について成功体験をデータベース化し、職員間で共有する。大型電子黒板だけの質問事項をつくりアンケートをとるなどの工夫はいかがか。大型電子黒板については、自分の職場でもノウハウがある。講師として職員を派遣することも可能。

佐藤委員 インクルーシブの体制について、学力の差で辛くなるのは、前提としてあって、それをフォローする体制を作るのが大切であると思う。

上釜 GL 学力が違うのは感じる。本人たちのプライドもある。個々のニーズに答えていきたい。中には英検準2級に合格する1年生もいる。使用するプリントを出すのに苦労する生徒もいるし、一つの教室内の学力の幅は広い。難しいがその中で信頼関係を築きながら授業を行っていきたい。

斉藤 GL 畑作りの話（キャリアの授業）で価格設定の話題が出ていたが、キャリアの授業では、先ず仕事では役割分担があると理解し、その仕事をお互いに協力してやるという姿勢を身に着けることをメインに考えている。

副校長 運営協議会での委員の方々の助言により、改善に努めていく。電子黒板のアンケートをとるといってお話があったが、そのような改善につながるご意見をいただけるのはありがたい。

田中委員 小学校はタブレットを使って、意見を言うような授業を行っている。自分の意見を口頭で言いにくい生徒も、タブレットに入力し、それが画面に出ることで自分の意見を言える。また、字を書くのが苦手な子どもにも有効な手立てだと思う。

副校長 上矢部高校にここをがんばってほしいということはないか。

校長 地域として上矢部高校の生徒に期待することはありますか。災害時等はどうか。

小泉委員 災害時にお年寄りを助けるなど、高校生が自主的に行動してくれることを期待している。授業の雰囲気からは十分にできるのではないかと思う。

校長 他になにかご意見があれば、メール等でもいただけるとありがたい。今後の取り組みなど次回の運営協議会までに整理していく。よろしくお願いします。

#### 4 報告・連絡事項

(1) 今後の日程について

第3回学校評価（1月の予定）1月23日（木） 13：30～

(2) 部会について

地域連携部会、教育活動部会は次回開催